



善正寺だより

揭示板法話

闇の深さは誰しも 変わりない 大慈悲心に触れ 他人事でないと目覚める



高三の息子が母親を殺害、というシ
ョッキングな事件が先日、四日市市内
で起きました。事件直後、会う人毎に
「どこの子?」「何という高校なの?」
等々、話題騒然でした。日が経つにつ
れて、世間の話題にはならなくなりま
した。しかし、残された家族の居場所
はあるのか?恐らく元の住まいには
住めないのではないか?「世間の冷た
い視線」が家族の居場所を奪っている。
「世間」の中の一人である我々も「無
知の罪」を犯しているのではないかと
思います。如何でしょうか?

この事件から、「仏説観無量寿経」
に説かれる「王舎城の悲劇」が思い起
こされます。釈尊在世の時代、マガダ
国のビンバシヤラ王が息子・アジャセ
に殺害され、王を助けようとした王
妃・イダイケも牢獄に幽閉されてしま
います。嘆き悲しむイダイケは、自ら
の求めによって牢獄に馳せ参じたお
釈迦さまに「なぜ私にあんな悪い子が
生まれたのか?」と愚痴をこぼし、「な
ぜあなたの親せきのダイバダツタが
息子に悪事をそのかしたのか?」と
怒りの矛先をお釈迦様に向けました。

釈尊は問いに直接答えず、諄々と仏の
世界を語る法を説かれます。実はこの
事件の起きる前に、深い闇があつたの
です。長く世継ぎに恵まれなかつた王
は古い師に頼ってもらい「山中で修行し
ている仙人が3年後に亡くなつたら
生まれ代わりに子が授かるだろう」と
言われた。3年も待てない王さまは家
来を遣わせて仙人を殺害。ほどなく王
妃は身ごもりますが、また占つてもら
うと、「大変聡明な男の子が生まれる
が、親御さんのためにならぬ子になる」
と予言されました。妃は高樓に上つて
赤ん坊を産み落とし、針山に串刺しに
して殺そうとしますが、子供は小指1
本を怪我しただけで産声を上げまし
た。この話を聞きつけたダイバダツタ
が悪事を企てます。アジャセに出生の
秘密を教えて父王を殺させ、アジャセ
王を自分の外護者として、お釈迦様の
仏教教団を牛耳ろうとしたのです。

この悲劇の登場人物を親鸞さまは
単に酷い人間だと批判されません。
「イダイケもアジャセもお釈迦さ
まのお導きによって自分の罪業の深
さに気づきました。この人たちは念仏

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

◇4月の門信徒会例会

4月16日(日)夜7時半より

※新・旧行事さんは必ずご出席をお願いします

《選挙公示》5月の総会で総代・世話方さんの任期4年が

満了になります。それに先立ち新世話方10名の選挙を実施し
ます。行事さんが投票用紙を配布・回収し4月16日夜開票
します。皆様のご協力よろしくをお願いします

◇絵手紙教室 4月11日(火)午前10時、20回目川崎光子先生

◇キッズサンガ4月1日(土)4時 鐘撞き夕方5時、年中無休

◇三全仏教婦人会※総会3月20日(月)夜7時 善正寺※初参式
&降誕会 4月15日(土)午後1時 光念寺様

予告:5月21日(日)10時『門信徒会総会』新世話方、新行事長、
会計係発表、年間行事計画予算案、昼食有、出欠票をとります。

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。
毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設8年8カ月で
23万2千訪問、一日平均90訪問、悩み相談、大歓迎!即返信

◇一縁会テレホン法話:059・354・1454お電話下さい
3月20日から26日まで坊守が一週間担当。3分間の法話が流
れます。

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方;本堂使用可。寺にご相談下さい。

の教えに早く気づきなさいと我に勧
めて下さる菩薩なのだ。子供が欲しけ
ればどうしても手にしたいと折り、要
らなければ捨てようとする自己中心
主義は誰しも変わりがないのだ」と受
け止められたのです。人間の闇の深さ
は昔も今も古今東西、少しも変わりあ
りません。大慈悲心に触れてこそ、悪
業は他人事ではないと知らされる。無
知の罪に気づき、他を裁くことのでき
ぬ身と知らされ、自他ともに居場所が
見出される世界があるのです。



写真アラカルト

左: 廣如上人書のお軸
(館美代子様寄贈)



坊守スケッチ

空が青いから白を選んだのです

これは奈良少年刑務所に服役中のA君が書いた一行詩です。少年たちを更生させるために、寮美千子さんが指導し編集した詩集の題名にもなっています。無口なA君が、詩を朗読した途端、堰を切ったように語りました。「今年で母の七回忌です。病院で亡くなる前に『辛いことがあったら、空を見て。そこに私がいるから』と僕に言ってくれました。それが最期の言葉でした。父は病弱な母をいつも殴っていました。僕は小さかったから、何もできなくて・・・」。

この詩を聞いた教室の仲間が次々に感想を言いました。「A君のお母さんは真つ白でふわふわの雲なんや」「この詩を書いたことでA君は親孝行」。「僕は自分のお母さんを知りません。僕も空を見たらお母さんに会えるよな気がする」とおいおい泣きました。たった一行の詩が皆の心を揺すぶり、そこから繋がる心の輪を感じたA君。彼の表情は晴れ晴れしていました。真宗大谷派の僧侶で宗教家の晩年敏師が、母が亡くなった時に作った『母を憶う歌』三七〇首があります。その中に有名な一首があります。「十億の人に 十億の母あらむもわが母に まさる母 ありなむや」我が母こそ世界一！母の愛情をしっかりと心に受け取れる人は幸せです。



思えば親鸞様も蓮如さんも、母を慕う気持ちが発端となって、仏道を歩まれたのではないのでしょうか？

最近は何見放棄や児童虐待の事件が頻繁に起こっています。家庭が崩壊し、親の愛情が伝わりにくい時代になりました。子供達が親から愛されている実感こそが、彼らを健全な道に歩ませ、力強く生き抜く糧になるのです。私自身も亡き母からいつまでも見守られているという安心感に包まれ、子や孫へもその愛情をしっかりと伝えていきたいと思えます。

敬吊

★樋口恒美様 (79歳・2月15日往生・四日市) 合掌

カンパありがとう！

山中つや子様、他匿名様より頂戴しました。感謝申し上げます。

寄稿

四日市市 釈妙水

独り居は はんぺん菜花 昼餉かな
寺の朝 和顔交わして 梅開く
草の根や 土・水・光 浴びており
かじかむ手 押して自転車上り切り

寒椿 どこで散っても 浄土の上
すまし顔 二人並んで 弥生かな
山笑ふ 足取り軽き 散歩道

四日市市 釋清風

三月で五歳になった長男は四月から幼稚園の年長さん。長女は二歳半になります。二人共お喋りが大好きです。長男は甲高い声で身振りをつけて『仏の子供』を歌います。長女も最近自己主張するようになりました。人前で恥ずかしくないように、親として徐々につける責任を感じています。

☆若院夫婦の「育自な毎日」その29

お喋りが達者な二歳半の長女は、時々大人の口真似をします。あどけなさの中に大人びた口調が面白く場を和ませます。その一例をご紹介します。桃の節句が近づいたある日、「母ちゃん抱っこして」とせがみました。「母ちゃん忙しいから、父ちゃんが代理で抱っこしてあげよう」。

「えっおダイリさまが抱っこしてくれるの？」と長女は不思議そうな顔つきをしました。「代理」を「内裏」と勘違いした長女に、二人共大笑いしました。他にも食卓に並んだジャガイモに「これはりんご！」とお箸を伸ばします。なるほど確かに似ています。子供のモノの見方は、大人とは違って実に柔軟だと、妙に納得しました。

子供とお喋りから、親も新たな感性を磨かれ、学ぶことがあるのだと気がかされました。子育て中の皆様から、微笑ましいエピソードや面白い体験談があれば、是非お聞かせ下さい。(若坊守)



お知らせ

◇3月18 (土) 19 (日) 両日共午後1時半『春季永代経』講師は稲葉芳道先生3回目(奈良吉野)夜法座無し。
◇3月20日(月)夜7時『三全仏教婦人会総会』(善正寺にて)

◇5月11日京都伝灯奉告法要バス参拝(40名)は、近づきましたら、参加者に詳細をご連絡申し上げます。
◇新世話方(10名)選出の選挙で、3月中に行事さんが投票用紙を配布します。後日回収して4月16日夜の門信徒会で開票。その日は新旧行事さんのご出席よろしく申し上げます。
◇一月の大雪被害で本堂の樋と、庫裏の屋根瓦・樋が破損、修繕工事します。

☆ 編集子より ☆



「善正寺だより」第二八〇号をお届けします。◇ある方から「私このままで自分を引き受けられるようになりました」というメールを受信。苦しみの理由を外に見出している時には得られなかった安らぎの心境を語るこの人の表情は輝いていた。◇仏法は内を見る眼が養われるのだと実感。合掌。

春は花の盛り。外界は心ウキウキなのに、閉ざされた堀の中
で罪を償う人もいます。奈良少年刑務所詩集(寮美千
子編)の最新本を購入。世界はもと美しくなる筈という本で
「父と母から救われたこと」という詩を紹介します。「あんなな
んか産むんじゃないかった」と母の言葉。僕を湖に突き落と
して殺そうとした父の行動。小さい頃から僕は「生きて
はいけない人間」と教えられた。入水、首つり、薬の大量
服薬……。病院のベッドで母からかけられる言葉は「また
生きていたん？ 死ぬのはよかったのに」でした。大人は誰も助け
てくれなかった。僕には生きる意味も価値もありません。
今でも考えは変わっていません。僕は必要のない人間です。
ただ生きていくだけです。これからは「生かす」とし、生まれてから
ずっと親の愛情に恵まれなかった少年の悲痛な叫び
が聞こえてきます。何と寂しい人生でしょう。子を持つて知
る親の恩」という詩があります。無心に母親の乳房に吸
いついてくる赤子を抱く時、母になった喜びを知り、「自分は
必要とされている人間、この子の為ならばどんな苦労
も厭わない」と無償の愛を注ぎます。自分を必要として
くれる人が一人でも居たら生きていきます。家族や友人
を大切にしていって、見返りを求めない心で行動する、自分
一人の為だけでなく誰かの為に生きてみる。お寺は
そういう人が集う場所。法友に出会う場所です。
寂しい人生に終わらせない為にご縁を大事にいたしま
しょう。あなたのご参詣をお待ち申し上げます。合掌

平成二十九年四月 善正寺坊守 拝